

学校教育目標

笑顔で

かしこく

たくましく

上谷の丘

～ 本当の笑顔と学びがある学校を ～

坂戸市立上谷小学校 学校だより

令和3年 3月 17日 NO. 26

文責 校長 柴崎 利美

児童数191名（3月17日現在）

「卒業」の足音

～ 12歳の決意は、 その子の一生に関わる ～

3月10日（水）に6年生は最後の学年イベント「校外学習」に行ってきました。

もちろん、入念なコロナ対策をとってです。行った先は「東武動物公園」。場所の選定にも苦労

をしましたが、6年生にとっては大変いい思い出になったと思います。この日は風が強く、体験できる乗り物も制限がありましたが、どの行動班もまとまって仲良く見学できたのは

「上谷小ならではの」と感じています。この分け隔てない「仲の良さ」や何気ない「思いやり」には、いつものことではありますが、やはり驚いてしまいます。6年生はこの先、長い人生

で何かの拍子にこの日のことは思い出すのでしょうか。どんな状況にいても、その回想が「元気づける・勇気づけるシーン」になること、「笑顔になれるシーン」になることを願っています。

体育館では卒業式の練習が始まりました。

昨年度もそうですが、コロナ禍もあり練習にかける時間はとても短いです。練習に臨む6

年生の引き締まった表情、張りのある返事を聞いて「立派な中学生になれ」「いい人生を歩ん

でほしい」そう素直に思い、なにかしら応援したくなります。一人ひとりをお願いしたいの

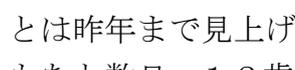
は、漠然としていてもいいから、自分の生き方の方向性を決めて欲しいこと。です。「○○になりたい」もいいですが、ぜひ「こんな○○になりたい」の「こんな」を方向付けて欲しいのです。

例えば「医者になりたい」というのであれば「世界で困っている人を救う医者になりたい」と。とすれば「中学校では英語をがんばる必要がある。道徳も大事だ。人の心に

寄り添う医者になるために。」と身近な目標が見えてきます。途中変更で「世界で困っている人を救う海外協力隊になりたい」でもいいと思います。ここで言う「こんな」とは、自分の生き方の哲学であり人生を貫くものだからです。難しいかもしれませんが、目標を定めた1

2歳（中学生）は強いのです。西門の敷地内の桜並木に毎年1番先に

咲く小さいサクラがあります。6年生は今年もそれを見て何を感じるのでしょうか。言えることは昨年まで見上げたサクラとは一味も二味も違うということです。上谷っ子でいられるのもあと数日。12歳の「出会いと別れ」を充分に感じ・味わい、そして学び「生きて行くとはこういうことだ」と、それぞれの感慨をもって巣立ってほしいと思っています。



劇団「風の子」 とんからり を鑑賞しました。

文化庁が後援する「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」において上谷小で演劇鑑賞が実施できるのを確認したのが2学期。その後、劇団「風の子」と打ち合わせを重ね、新型コロナの状況を見ながら3月の開催を決断。本来の1ステージ契約を午前・午後と2ステージ公演にさせていただき、学年も大きく2つに分けての開催にこぎつけました。団員さんはすべてPCR検査「陰性」のお墨付き。



目の前で生の「人間」が演じる「演劇」。これを子どもたちに鑑賞させるのが私の願いでした。「人間」を学ぶ・演じる(まねる) ～ 話を傾聴する ～ (お話朝会・昼の放送劇) ～ 文が、思いが書ける ～ 学校研究「わかる喜びを味わわせる国語科学習」これらの繋がりがスパイラルに自発的な意欲をもって、うまく回ることがねらいです。当日(3/2)は、動きも声も「大きい」目の前で繰り広げられる圧巻のステージに、上谷っ子は釘付けでした。来年も呼べないかなあ。

「どんぐりと山猫」

昼の放送劇 第5弾



今回は2年生。「どんぐりと山猫」は宮沢賢治の童話ですが、大人向けの要素も多分に含んだファンタジーです。たくさんのどんぐりが目の前で「だれがえらいか」を繰り返し主張するのですが、その繰り返しが子供たちには面白いのだと思います。子供たちも楽しそうでした。よく練習をしたようで、「校長先生、5回読んできました!」「お母さんに聞いてもらいました!」

など、主張するのでこれもまた面白いです。次回は1年生で挑戦です。6年生にも聞いてもらいたいので、22日(月)に発表です。演題は「三匹のやぎのがらがらどん」。子供たちは放送で聞こえるお友達の声に、良くも悪くも衝撃を受けるようで、また、それが励みにもなっているようです。



読み聞かせは子どもたちは大好き。

子どもたちの心は読み聞かせに飢(かつ)えている。 その1

この学校だよりと同時に、「児童虐待の防止に向けて」のパンフレットを配布します。様々な虐待における児童への「負の影響」を説明しています。人間、老若男女だれしも「負」の感情を持つことはあります。ただ、普段の生活が±0で、あとは- (マイナス) の感情だけでは何のために生きているかわかりません。大人はまだしも未来のある子供たちにはプラスの感情を教え、根付かせることが欠かせません。それはまさに人との「交流」であり、具体的には、〇〇さんが待っている。□□さんが喜んだ。など、人の「役に立つ」ことであります。お互いが生かし生かされること。では、そのベース・源(みなもと)は何か。小学生以下の年齢において、それは、まずは「読み聞かせ」だと思っています。